証実験を行

一般会計の歳入総額 その他22.3年 地方交付税30.1公 (78億3千万円) (105億6千万円)

県支出金5.6公 (19億6千万円)

国庫支出金10.7% (37億5千万円)

市税20.3龄 (71億4千万円)

民生費25.6%

(83億7千万円)

市債11.0% (38億8千万円)

市税が71億3921万円 総額の3・1割を占めます。 歳入では、地方交対一般財源の決算状況 5億639 借金である市債は 4万円で、 地方交付税が

どの民生費が83億7249万 事業などを含む総務費は8億 子育てのための手当の支給な こども園の運営、

職員管理や地域活性化 歳出総額の25・6 對で 生活保護などの

734万円で、 借金は市民1 て2億947 一般会計、

だ)でした。
は56億3925万円 会計の借金の総額は37 特別会計、 借金を市民1 <u>81</u> 万円の増額 昨年度と比べ 17 · 2 億 企業

があります。詳

数字は四捨五入しているため、時点の4万5670人で換算 合計金額などが合わない場合 人で換算。

※人口は、令 令 和 7 · 年 3 月 31

法律に基づき、

市

の決算概要を公表します

合わせた市の歳入総額が47 会計に特別会計と企業会計を令和6年度の決算は、一般 445億5629万円でし 歳出総額

6万円の

で る の し た。 1 歳出では、

81 万

327 億円 一般会計の歳出総額

その他10.9% (35億8千万円)

公債費8.4%

(27億4千万円)

土木費9.4% (30億7千万円)

> 衛生費10.5% (34億4千万円)

般会計 歳出

総務費18.0公 (58億7千万円)

教育費17.2% (56億4千万円)

特別会計

	歳入	歳出	差引額	
国民健康保険事業	48億8,262万円	47億8,462万円	9,800万円	
介護保険事業	63億8,268万円	61億5,061万円	2億3,207万円	
遠山財産区	140万円	133万円	7万円	
上財産区	112万円	61万円	51万円	
後期高齢者医療	9億2,939万円	9億248万円	2,691万円	
·				

ᄉᆇᄉᆗ

企業会計						
	収益的収支決算		資本的収支決算			
水道事業	収入	16億3,023万円	収入	3億6,694万円		
	支出	15億6,694万円	支出	9億5,189万円		
下水道事業	収入	18億7,980万円	収入	5億6,268万円		
	支出	18億5,570万円	支出	9億9,662万円		
病院事業	収入	12億2,518万円	収入	4億6,336万円		
	支出	15億8,121万円	支出	4億8,442万円		
国民健康保険 診療所事業	収入	5億775万円	収入	2,708万円		
	支出	5億464万円	支出	4,429万円		

が始まりました 運営など、多くのメ 地域の交通課題の解決や、 村駅と岩村歴史資料館を結ぶ区間で実 削減や調査結果の共有による効果的な に向けた新たな交通網づ 9月末から各市で、 全国でも先進的な事例で、 広域での自動運転へ 運転士不足や高齢化などの ます 。ぜひ乗車 運転操作の一部 があります 、の取り組み リニア開業 くださ 費用の

自動運転EVバス実証実験 期間 10月25日出~11月9日(1) ※11月2日(日)、8日(出は車両の展示のみ

- 明知鉄道岩村駅~岩村歴史資料館
- 無料

協定締結披露式

▲東濃地域自動運転推進コンソーシアム

- 1日9便(1便の所要時間約30分)
- EVO(乗客定員:9人、最高速度:時速約19型)
- 予約専用アプリ「バスきて」をダウンロードして申し込む(先着順)。
- ■運行主体 NTT西日本㈱、㈱マクニカ
- ■運行ルート・バス停 以下の地図のとおり











やNTT西日本岐阜支店と協力

市·中津川

市・瑞浪市・土岐市・下呂市)

市は近隣の5市

動運転の実現を目指す

共同事業体を設

子ども限定!

乗車記念キーホルダー

をプレゼント!

未来

へ走る

自動運転

バ

ス

の

実証

実験を行



& A

- Q. 運転士は乗らないの?
- A. 今回の実証実験は「レベル2」の運行のため、車両には必ず安全運転を監視するオペレータ (運転士)が同乗します。必要に応じてすぐに手動運転に切り替えることができます。
- Q. 実験期間中、一般車両は通行止めになるの?
- A. 通行止めなどの交通規制は行いませんが、ルート上の路上駐車は遠慮ください。 バスは時速19型以下でゆっくり走行します。横断する場合は十分に注意ください。
- Q. 今後の予定は?
- A. 特定の条件下で完全自動運転する「レベル4」の運行を目指しています。
 - 令和7年度:レベル2(運転士同乗)の実証実験を実施
 - 令和8年度:レベル4(特定条件下における無人運転)の実現に向けた実証実験を実施



2025年10月広報えな